

平成23年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1470800846	事業の開始年月日	平成16年6月1日
		指定年月日	平成16年6月1日
法人名	特定非営利活動法人 加齢ライス		
事業所名	ほのぼのほーむ		
所在地	(〒236-0042) 横浜市金沢区釜利谷東7-14-29		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	9名
		ユニット数	1ユニット
自己評価作成日	平成24年2月14日	評価結果 市町村受理日	平成24年4月15日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

建物内はすべてバリアフリーの安全の中で利用者同士が思いやりを持ち、仲良く生き生きとした表情で生活していることが、スタッフの励みとなっている。又、ご家族様との連携を大切にしています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	神奈川県横浜市西区南浅間町8-22-207		
訪問調査日	平成24年2月28日	評価機関 評価決定日	平成24年4月9日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<事業所の優れている点> <ul style="list-style-type: none">・事業所の近くには利用者の散策に適した「小川アメニテイ」があり、道行く人とふれあいのできる静かな環境に立地している。リビングは明るく天井が一段と高くなっていて圧迫感がない。・事業所の理念に併せて、管理者が「目標を持つ」「常に尊敬の念」「丁寧な言葉づかい」「常にきれいに」「日々の会話を大切に」などの「介護十訓」を作成し、職員は毎朝利用者と一緒に唱和し、常に利用者の立場に立ったサービスの提供に努めている。・毎月、協力医療機関の内科医の往診があり、利用者の健康管理を行い医療相談を受けているので、利用者は気持ちを楽に医療を受診している。家族は、医師の来訪時に同席し、受診結果などについて直接話ができるので安心感を持っている。 <事業所が工夫している点> <ul style="list-style-type: none">・レクリエーションに力を入れて、職員の支援で、利用者は食前の口腔体操の早口言葉・ボーリング・輪投げ・玉入れなどで体のあちこちを動かしている。また、洗濯物干し、朝の掃除機とモップかけ、外の庭掃除など、あらゆる機会を通じて機能訓練を日課としている。・職員は、家庭的で明るい雰囲気を作ろうと、利用者の気持ちに寄り添って支援している。その結果、利用者は、口紅をつけお化粧し、歌を唄い、身体を動かし、表情が明るく笑顔になって過ごしている。
--

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	ほのぼのほ一む
ユニット名	

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

ほのぼのほーむ

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	独自の「介護十訓」をリビングに掲げ、毎朝利用者とともに唱和し、理念の実践に取り組んでいる。	<ul style="list-style-type: none"> ・理念に併せて「介護十訓」を管理者と法人役員が話し合っけて作成し、リビングに掲示している。 ・管理者は入職研修時には説明し、職員は毎朝利用者と一緒に唱和し、日々の実践につなげている。 		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に入会し、ごみ収集日には掃除に参加している。散歩コースとなっている近隣の方々と気軽に挨拶を交わしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・町内会に加入している。地域の防災訓練に参加し、夏祭りには神輿が事業所近くに立ち寄ってくれた。 ・地域のボランティアの方が日本舞踊、チェロなどの楽器演奏に来所している。 		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	徘徊高齢者SOSネットワークに加入し、協力態勢をとっている。相談事にはその都度対応している。			
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	近隣居住の職員が多く、常に情報は持ち寄っているが、今後の課題としたいところである。	<ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議は過去に2回開催したが、出席率が悪いので実施していない。 ・釜利谷地域包括支援センターの職員や地元に住む職員から地域の情報を得ている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議を開催し、事業所の運営状況や活動内容を報告し、理解と支援を得て、一層地域との交流が深まることを期待します。 	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	ホームでの判断が難しいことは横浜市、金沢区の窓口相談している。他区とも協力できている。	<ul style="list-style-type: none"> ・管理者は金沢区役所高齢支援課へ事業所の運営や業務上の問題点などを報告し、助言や指導を仰いでいる。 ・介護保険の更新手続きの書類を家族に代わって作成することもある。 		

ほのぼのほーむ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	当然のことなので、職員共々話し合って安全を優先している。玄関は常に自由に入出入りしている。	・身体拘束の勉強会を行い正しい理解に努めている。 ・玄関は施錠せず、自由な暮らしを支援している。 ・移動に危険な利用者の安全確保のために、家族の依頼と了解の下に、ベット柵にロープと鈴をつけて見守っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	「虐待の事例」の学習を行っている。どんなことでも記載できるノートを作ったり、入浴時に身体の変化の観察も行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修も受講している。必要時、ご家族にも具体的に支援ができるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分に理解し納得されるまで丁寧に説明している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	不満・希望については個別にお話を伺い、ご家族の協力を得ながら解決している。『ご意見箱』を設置している。	・苦情や要望の窓口は、契約時に説明している。 ・毎月の往診医の来訪時には家族の同席を依頼し、その機会を家族会として、意見や要望を聞き、運営に反映するように心掛けている。	

ほのぼのほーむ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日のミーティングで報告・相談を受けながら、働きやすい環境を共に作り上げていくことを、常に話し合っている。	・管理者は月1回のスタッフ会議やミーティング時に職員の意見や提案を聞き業務の改善や向上に反映している。 ・法人の役員は遠出の外出時には車の送迎に協力し、職員の意見や要望を聞いている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	一人ひとりの個性を尊重し、努力している。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修を受けることはシフト上難しいが、毎日のケアの積み重ねの中から得るものや意見交換しながら学んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	横浜市の認知症高齢者会議には、情報交換の場として出席している。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	とても大切なことなので、ご家族の協力を得ながら不安にならないよう、要望等に耳を傾け、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。		

ほのぼのほーむ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	安心して頂くために、どんな些細なことでも話せる雰囲気づくりを心掛けている。電話相談、来訪時も常時受けられる体制を取っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	個別性を大切にし、優先順位を見極めながら対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	残存機能を生かし、できたことは共感し合える気持ちを表現しながら、家庭的な場所づくりをしている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の現状を理解しながら情報を交換し、不安な状況を解決している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方にはいつでも訪問してもらえるように対応や環境づくりを行っている。 手紙のやりとりは希望を聞いて支援している。	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者は家族と一緒に寿司店やラーメン店に行ったり、墓参に出掛けている。 ・時には利用者の知人・友人が来訪し、居室やリビングで歓談している。 ・年賀状や手紙が届き、返信を書いてポスト投函を職員は依頼されることもある。 	

ほのぼのほーむ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者一人ひとりの性格を理解し、良い関係づくりができるように、スタッフが把握しながら居心地の良い場所づくりをしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	いつでも気軽に相談・支援できる関係にしている。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	一人ひとりの希望・思いを伺っている。	<ul style="list-style-type: none"> 職員は日常の行動や表情の中から、利用者の意向や希望を汲みとるように努めている。 意向を自分から伝えにくい方には居室や夜間の静かな時間帯、散歩時などに職員に話しかけ、思いの把握に努めている。 	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に生活暦等をお聞きして、アセスメントへ情報を記載している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のケアの中で、スタッフはよく観察し、気付いたこと、変化などをミーティング時に情報交換して、日々の記録を残している。		

ほのぼのほーむ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族、スタッフ、主治医、関係者の意見を取り入れながら計画を作成している。	<ul style="list-style-type: none"> ・入居時に介護計画作成担当者が自宅や病院を訪問し、本人や家族と話し合っている。 ・職員とカンファレンスを行い、医師の意見を入れて作成している。 ・介護計画の見直しは、通常は3か月毎に、継続時は6か月毎に、変化があれば随時状況に応じて行っている。 	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は介護記録に記入し、共有すべきことは連絡ノートにきさいしている。カンファレンス時に意見交換し、介護計画書に反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	事業所でできないことは家族やボランティアなどへ依頼している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地区センター、近くのスーパー等を利用している。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎月主治医の往診があり、ご家族の付き添いもあるので、情報の共有ができています。症状によっては専門病院の紹介もある。	<ul style="list-style-type: none"> ・本人や家族の希望するかかりつけ医による医療を継続して受診できるように支援しているが、現在は、利用者全員が協力医療機関の往診医の診療を受診している。 ・医療情報は定期健診票に記録して共有している。 	

ほのぼのほーむ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	変化があればいつでも主治医に連絡できる体制になっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院側と情報交換しながら早期退院に向け連絡を図ってきた経験が何度もあるので、今後も十分対応できる。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時の説明と状態の変化を早めに医師に相談し、家族と方向性を話し合っている。	<ul style="list-style-type: none"> ・看取りを行っている。看取りは、医療行為が必要ない利用者には家族の要望と協力のもとに、主治医と相談して行っている。 ・急変時には主治医、家族、職員が話し合い、最善の方法を採る方針を共有し勉強会も実施している。 	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	状況を想定し、いつでも対応できるようにしている。急変時のマニュアルで常日頃確認している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て、防災避難訓練を利用者も参加し、年2回実施している。近隣の方にも参加していただいている。	<ul style="list-style-type: none"> ・防災・避難訓練は消防署の協力を得て、年2回実施し、うち1回は夜間想定を行っている。 ・訓練時には地域の方の参加を得ている。 ・非常災害時の食料・飲料水は備蓄されている。 	

ほのぼのほーむ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	親しみやすさやなれ合いになる対応が、傷つける言動になりやすいことを常時注意喚起している。	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の個人情報を含む書類は、施錠のできる書棚に保管している。 ・職員はプライバシーについての研修をしている。 ・職員は入職時に個人情報保護遵守に関する誓約書を提出している。 	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の会話でも、最後まで話ができるよう、待つ姿勢を大事にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人のペースを大事にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	「介護十訓」にもうたっている。希望により訪問美容師にも来てもらっている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材は季節感のあるものが多く、好き嫌いなく間食されている。食事の準備、配膳、片付け、食器拭きなどもお願いしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・職員は利用者と同じテーブルと一緒に食事をしている。 ・湯のみ、ご飯茶碗、ハシは利用者の使い慣れたものや、好みのものを使用している。 ・利用者は配膳、片付けを職員と協力して行っている。 	

ほのぼのほーむ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士の献立でバランスが取れている。一人ひとりの状態に合わせて量を調整し、水分量もチェック表で確認することができる。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを実施している。就寝時は義歯洗浄剤を使用している。定期的に訪問歯科医の検査を受けている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個別ケアの支援を行っている。	<ul style="list-style-type: none"> ほとんどの利用者は自立しており、介助の必要な利用者には、排泄チェック表から排泄パターンを把握してトイレ誘導している。 脱衣所にあるトイレは、利用者の安全を確認できるようにドアからカーテンに変更して見守り支援をしている。 	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維質の多い食材のほか、水分量、毎朝の体操、散歩を日課にしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	日中の明るい時間帯での入浴は喜ばれている。	<ul style="list-style-type: none"> 通常週2回の入浴を実施しているが、夏場は入浴のない日には足浴などの支援をしている。 現在、入浴をしたがらない方はいない。 季節により「菖蒲湯」「ゆず湯」などを実施している。 	

ほのぼのほーむ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の体調や状況に合わせて対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の目的は主治医の往診で理解ができる。服薬の効能・変化についての相談もできる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴を考慮しながら、個々の役割を持っていただき、達成感につなげるようにしている。 毎日のレクリエーションには力を入れている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入浴日以外は近隣の散歩コースに出かけ季節を感じたり、普段行けない場所は行事として計画したり、家族にお願いしている。	・週5日は、雨の日以外は事業所前の遊歩道を2つのコースに分けて散歩している。 ・金沢自然動物園にボランティアの協力を得て、利用者全員で手作り弁当を持って出かけた。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人の希望、能力に応じた支援を行っている。		

ほのぼのほーむ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族の声を聞きたいときは、いつでも電話を使えるようにしている。手紙、ハガキも常時用意している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	行事の写真を皆さんで貼ったり、一人ひとりの作品を飾ったりして、季節感・生活感を出している。	<ul style="list-style-type: none"> ・リビングには生花や貼り絵、壁掛け、額などを飾り、季節感を出す工夫をしている。 ・居心地よく過せるように共有部分の清掃は職員が「衛生チェック表」に基づいて行っている。 	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有できるものを置いたり、毎月の作品を掲示したりしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自分の使い慣れたもの、大切にしていたもの、家族の写真等を居室に置くことによって安心して過ごしていただいている。	<ul style="list-style-type: none"> ・居室にはエアコン、クローゼットがあり、利用者は使い慣れたベッドや整理ダンスを置き、仏壇や神棚などを飾っている。 ・壁面には家族の写真や、レクリエーションで作った作品を飾っている。 	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内はすべてバリアフリーにし、手すりの設置で安全を優先している。表札や表示によって混乱しないような環境にしている。		

目 標 達 成 計 画

事業所名

ほのぼのほーむ

作成日

平成24年4月6日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1		運営推進会議の開催	今年度は実施の予定	2か月に1回は到底無理なので、とりあえず1回目を早めに予定したい。	1年間を通して時期を見て、実施の予定。
2					
3					
4					
5					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。